

平成30年度第2次補正予算

重点分野・テーマ別に集中実施する販売促進の強化等緊急対策事業に係る

海外販売促進活動報告書

令和元年 8月30日

JA全農インターナショナル

青果部

重点分野・テーマ別に集中実施する販売促進の強化等緊急対策事業の
海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域 ： 香港

実施期間 ： 令和元年 8月14日(金)～ 8月16日(日)



「香港 DONDONDONKI 北海道青果物フェア」

1. DONDONDONKIでの北海道産青果物フェアの実施内容

- (1)期間 : 令和元年8月14日(金)~8月16日(日)
- (2)場所 : DONDONDONKI 尖沙咀店
- (3)出席者 : 全農インターナショナル香港 佐藤GM、アンソニー
- (4)内容 : DONDONDONKIの香港1号店にて、旬の北海道産の青果物を、試食を交えた販売促進を行った。
- (5)販売青果物
- メロン(赤肉) 110 ケース
 - メロン(青肉) 30 ケース
 - 小玉スイカ(赤肉・黄肉) 60 ケース
 - 長芋 20 ケース
 - 白菜 60 ケース
 - 軟白ネギ 10 ケース
 - トウモロコシ 110 ケース
 - ブロッコリー 40 ケース
 - 他青果物 100ケース
 - メロン系加工品 100ケース
- (6)出荷日程
- 【船】8月 4日 横浜港ETD
 - 8月 11日 香港港ETA
- (7)着荷状況
- CAコンテナの低温で輸送したが、一部トウモロコシやブロッコリーで品質不良が見られ、あらためて青果物の船輸送の難しさを痛感した。
- (8)売り場にて
- メロンは香港ではマレーシアのハネジューメロンがよく見られる。マスクメロンは見た目にも、差別化でき品質の違いをアピールできたと思われる。
- また試食を多く提供したが、味の違いを多くの消費者に体感頂いた。美味しいと感じた消費者の購買率は高いものがあった。

2. 店舗での販促の様子



メロン・スイカを中心に大量の試食をふるまった



旬の野菜類も鮮度抜群でPR実施



3. 所感

今回も果実だけでなく、野菜を多く取り組み、氷詰め等にもチャレンジした。まだまだ輸送に課題が残ったが、価格・販売数量を考慮すると、今後も船輸送にチャレンジしたいと考える。

北海道ブランドに対する香港消費者の心象が良いため、売り場周辺に多くの消費者が集まる時間帯が長かった。

試食の中心はメロンであったが、日本のメロンの甘さは浸透していると感じた。当社も5月に九州産のメロンの販促を実施しているが、産地リレーの継続を意識して今後も取り組みたい。

4. フェアの成果及び今後の進め方

プロモーターによる試食販売をふくみ、約1週間で多くを売り切ることができた。次は野菜の試食販売を企画し、日本の青果物の旨味・新鮮さなどをもっとアピールしたいと思う。また、鮮度の追求は継続課題として取り組む。



平成30年度第2次補正予算

重点分野・テーマ別に集中実施する販売促進の強化等緊急対策事業に係る

海外販売促進活動報告書

令和元年 9月21日

JA全農インターナショナル

青果部

重点分野・テーマ別に集中実施する販売促進の強化等緊急対策事業の
海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域 : 香港

実施期間 : 令和元年 9月6日(金)～ 9月15日(日)



「香港 鳥取県産梨フェア」

1. DONDONDONKIでの鳥取県産の梨フェアの実施内容

- (1)期間 : 令和元年9月6日(金)～9月15日(日)
- (2)場所 : DONDONDONKI 尖沙咀ミラモール店舗
- (3)出席者 : 全農インターナショナル香港 佐藤GM
全農インターナショナル 白石
- (4)内容 : DONDONDONKI1号店にて、鳥取県産の梨「新甘泉」「二十世紀」の販促を、試食を交え実施した。
中秋節を彩る品目として大いに賑わい、販売金額も順調に計上された。
- (5)販売青果物
新甘泉梨 200 ケース
二十世紀梨 150 ケース
- (6)出荷日程
【船】8月29日 神戸港ETD
9月 2日 香港港ETA
9月 4日 店舗にて販売開始
- (7)着荷状況
リーファコンテナで輸送したが、おおむね商品は良好であった。
身のつきかた、甘みは良好であった。一部黒点やキズが見られたが、早期に販売することができ、早々に完売した。

2. 店舖での販促の様子



3. 所感

中秋節向けの旬の果実として香港や台湾で既に浸透している「青梨:二十世紀梨」に加え、産地推奨品目の「赤梨:新甘泉」をメインに試食販促を実施したが、糖度が高く、食味抜群の「新甘泉」が思った以上に盛況であった。やはり食べてもらうことは大事と感じた。

まだまだ新品目の展開もできると実感できたので、これからも既存品目だけでなく、新しい品目の販促にもチャレンジしたいと考える。

4. フェアの成果及び今後の進め方

品目と品種リレーを念頭に、日本産の最大長所である食味を前面にだした営業を今後も心掛けたい。海外の消費者に鮮度の良い状態で届ける仕組みを構築したいと考えますが、そのためにはスムーズな輸出(手続きや物流)が実現できるよう、協議会および他団体とも連携し、日本産青果物の輸出拡大に向け取り組みたいと考える。